

大阪大学
21世紀
懷徳堂

i-spot 講座

2013年度 後期

大阪市と大阪大学が共同で市民のみなさまに提供する公開講座です。それぞれの専門分野から、ともに「学び合う」を意識したテーマ設定と講座スタイルが特徴です。

今期は「ココロを科学する」と「ニッポン再考」の2シリーズ。受講料は無料です。お気軽にご参加ください！

気軽に教養を身につけたい。
仕事帰りやちょっとした合間に知的気分転換したい。
大阪大学の先生と学問談義したい。

そんなあなたに、

i-spot
講座

講座案内 内容の詳細は裏面に掲載しています。

ココロを科学する シリーズ

2/18(火) こころの病気ってどんなの？
18:30~20:00 橋本 亮太 (大阪大学大学院連合小児発達学研究所・准教授)

2/21(金) 「さわる」を科学する
18:30~20:00 ~触感の心地よさのメカニズムと製品開発~
秋山 庸子 (大阪大学大学院工学研究科・講師)

3/10(月) 人の興味をひく仕掛け
18:30~20:00 松村 真宏 (大阪大学大学院経済学研究所・准教授)

ニッポン再考 シリーズ

2/24(月) 『チカン・アカン』の歴史
18:30~20:00 ー大阪の鉄道路線の光と影
岩井 茂樹 (大阪大学日本語日本文化教育センター・准教授)

3/14(金) 総中流社会から総格差社会へ
18:30~20:00 吉川 徹 (大阪大学大学院人間科学研究所・准教授)

3/17(月) 見えない歴史が現れる
18:30~20:00 小浦 久子 (大阪大学大学院工学研究科・准教授)

期間 2014年2月18日(火)~3月17日(月) 全6講座

会場 大阪市まちづくり情報発信施設「アイ・スポット」
(大阪市中央区今橋4-1-1 淀屋橋odona2階)

申込方法

- ①講座名②受講者ご本人のお名前③電話番号を、
電話・メール・FAXのいずれかの方法にてお知らせください。
- 各回申込制(無料)です。
- 申込開始時期は講座によって異なります。
チラシ裏面の各講座の概要をご確認ください。

お申込み・お問合せ

アイ・スポット

<http://www.city.osaka.lg.jp/toshikeikaku/page/0000018184.html>

アイ・スポット 大阪市 検索

Tel・Fax ▶ 06-4866-6803 ※電話受付は平日13:00~21:00、土日・祝日13:00~17:00

メール ▶ i-spot@voice.ocn.ne.jp



- ・地下鉄御堂筋線「淀屋橋」駅 10番出口直結
- ・京阪本線「淀屋橋」駅 3番出口から徒歩1分
- ・地下鉄四つ橋線「肥後橋」駅 5-A出口から徒歩6分
- ・地下鉄堺筋線「北浜」駅 2番出口から徒歩8分



大阪大学
21世紀
懷徳堂

ひらく・
つたえる・
わかちあう

大阪大学21世紀懷徳堂は、市民と大阪大学をつなぐ社会学連携や社会貢献活動の窓口です。大阪大学の高度な研究と教育の成果、文化的資源を広く社会に還元し、また、学外からの要望を受け、大学のさまざまな活動に反映させるコーディネータの役割を果たします。大阪大学の社会学連携の情報を集約し広報するとともに、大阪大学の精神的源流である「懷徳堂」で尊重された広範な分野にわたる学び合いの精神を汲み、公開講座、サイエンスカフェ、シンポジウムなどを企画・運営し、市民のみなさんと学生、教職員が出会い、能動的に学び合う場づくりを展開しています。

大阪大学
21世紀
懐徳堂

i-spot 講座

2013年度 後期



受講料無料

(各回申込制)

ココロを科学する

2/18(火)

18:30~20:00

こころの病気って どんなの？

橋本 亮太 (大阪大学大学院連合小児発達学研究所・准教授)

ストレスの多い現代社会で、こころの調子を崩す人が増えています。「こころの病気は、どのように診断されるのか?」、「こころの病気の原因は何なのか?」、そもそも「こころの調子を崩した人たちは、病気なのでしょうか?」などの疑問に、子どもから大人まで精神医学の専門的な立場から、実際の症例を通して、双方向性コミュニケーションにて答えたいと思います。

*本講座は新学術領域研究「包括型脳科学学術推進支援ネットワーク」の協力を得ています。

定員
先着 30名

申込受付開始
1/18(土)

2/21(金)

18:30~20:00

「さわる」を科学する ～触感の心地よさのメカニズムと製品開発～

秋山 庸子 (大阪大学大学院工学研究科・講師)

「しっとり」「ざらざら」「すべすべ」…物をさわったときの触感とはさまざまな言葉で表されます。このような皮膚感覚はどのようにして感じられるのでしょうか?人が物を触る時に皮膚の表面でどんな現象が起きているかを探索することで、人の感覚を数値として表すことを試みています。スキンケア製品や繊維製品の触感の具体例を挙げながら、触感とは何か、また人が心地よいと思う触感を作り出すにはどうすればよいのかについてお話しします。

*本研究の一部は科研費(課題番号:24700207)の助成を受けたものです。

定員
先着 30名

申込受付開始
1/21(火)

3/10(月)

18:30~20:00

人の興味をひく 仕掛け

松村 真宏 (大阪大学大学院経済学研究科・准教授)

人の意識や行動を変える「仕掛け」を体系的に扱うための学問領域に仕掛け学があります。仕掛けは、仕掛けのデザインや機能が人の興味をひき、その結果として意識や行動を変えようというメカニズムからなっています。本講座では、仕掛けのさまざまな事例を紹介しながら、仕掛けから人の心にアプローチする方法について受講者の皆様と一緒に考えたいと思います。

定員
先着 30名

申込受付開始
2/10(月)

ニッポン再考

2/24(月)

18:30~20:00

『チカン・アカン』の歴史 —大阪の鉄道路線の光と影—

岩井 茂樹 (大阪大学日本語日本文化教育センター・准教授)

大阪では十数年前から「チカン・アカン」と書かれたポスターが車内に貼られるようになりました。この「チカン」という言葉。元来「おろかな男性」であったのが、ある時期から現在のような意味に変わります。それはどうしてでしょうか。また日本の「チカン」は海外でも知られています。それはどうしてでしょう。この講座では、「チカン」という語の意味の変化や、「チカン」が起こりやすいと言われる日本の鉄道の特徴を、大阪環状線などを例に挙げながらわかりやすく説明します。

定員
先着 30名

申込受付開始
1/24(金)

3/14(金)

18:30~20:00

総中流社会から 総格差社会へ

吉川 徹 (大阪大学大学院人間科学研究科・准教授)

昭和の終わりの日本社会では一億総中流ということがいわれていました。けれども今は一転して、だれもが格差や貧困、孤独を感じ、他方では世襲や不平等も目立つ一億総格差の状態にあるとされます。平成の四半世紀の間に、私たちの社会はどこがどれほど変わったのでしょうか。だれもがなんとなく感じていることを、社会調査データに基づいて語ることの面白さと重要性を紹介します。

*本研究は科研費基盤研究(S)現代日本における階層意識と格差の連関変動過程の実証的解明(研究課題番号:23223002)の助成を受けたものです。

定員
先着 30名

申込受付開始
2/14(金)

3/17(月)

18:30~20:00

見えない歴史が 現れる

小浦 久子 (大阪大学大学院工学研究科・准教授)

日本は地域性の豊かな国です。地域の水や土を知る暮らしが地形風土と折り合う風景をつくってきました。長い歴史の積み重ねが町並みの特徴づけています。そこに暮らす人にとっては当たり前の風景がどこか心地よく魅力的であると感じることは少なくありません。こうした見慣れた地域の風景には、その魅力を物語る歴史や独特の暮らしの文化があります。多様なまちや集落の風景を成り立たせている見えない歴史を知ることから、地域の持続可能性が見えてきます。

定員
先着 30名

申込受付開始
2/17(月)